

みんなの地球

地球温暖化防止
小学校学習資料

6年生用

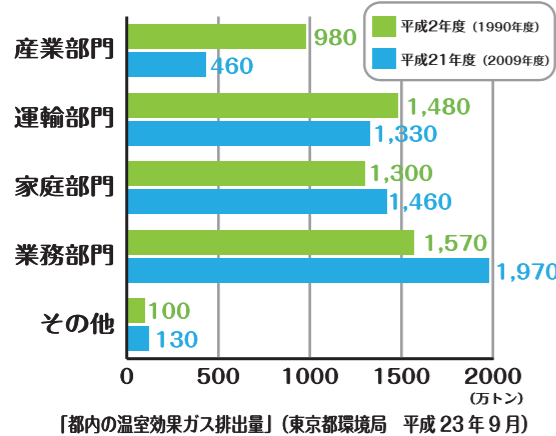
東京都教育委員会では環境月間である毎年6月を
「CO₂削減 アクション月間」
としています。

保護者の皆様へ



平成23年度は198,514人の
児童・生徒から活動の報告があり、
約680トンのCO₂の排出を削減しました。

東京におけるCO₂排出量の比較



大きな成果につながることを実感できたのではないのでしょうか。

大切なことは、大人も子供も環境問題に関心をもち、自らの問題として行動していくことによって、次の世代により環境を残していくことです。

小学校6年生では、理科や家庭科などの授業で環境について学習します。学習を通して身に付けたことを活用して、環境に配慮した行動に発展するよう、このリーフレットを都内の全ての小学校6年生に配布しました。お子様と一緒に環境について考え、行動を進めるために活用していただくようお願いします。

地球温暖化防止のために、CO₂削減は緊急で重要な課題であり、東京都ではCO₂削減に向け、全都をあげて取組を進めているところです。

東京都におけるCO₂の排出量は、平成21年度は約5,350万トンで、平成2年度の約5,440万トンから約1.6%減少しています。その中で、産業部門(工場等)は約53.3%の減少、運輸部門(自動車等)は約10.2%の減少、家庭部門は約12.6%の増加、業務部門(事務所等)は約25.3%の増加となっています。特に、家庭部門や業務部門の増加が多く、CO₂排出量の削減が課題となっています。

そのような中で、今年6月に実施した「CO₂削減 アクション月間」では、都内の小学校5年生と中学校1年生を中心に約19万9千人の子供たちがチェックシートを用いて一緒に活動に取り組み、約680トンのCO₂の排出を削減することができました。

一人一人の取組は小さいものであっても、都内の子供たちが一斉に取り組むことによって

今、地球上では、地球温暖化が
主な原因と考えられる気候の変化により、
次のような影響が心配されています。



生息地域の縮小

気候の変化についていけず、
絶滅する生物がでてしまうのでしょうか。



食料の不足

農作物に適した気温ではなくなり、収穫が減って、
食料が足りなくなるのでしょうか。



生息地域の拡大

暑い地域にいる蚊などの生物の生息地域が
しだいに他の地域に広がるのでしょうか。



砂漠の拡大

砂漠が広がったり、大きな台風による
被害が多くなったりするのでしょうか。

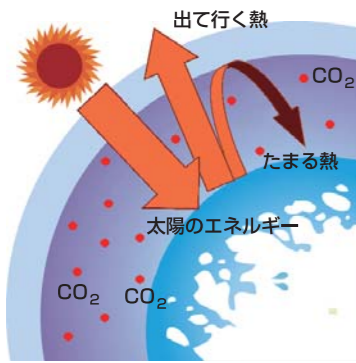


氷河の融解

南極大陸や北極近くの陸地や山岳にある氷河がとけ、
海面が高くなり、海に没してしまうところがあるのでしょか。

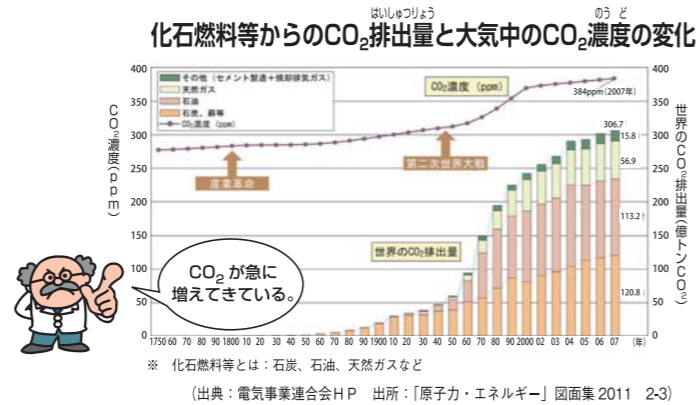
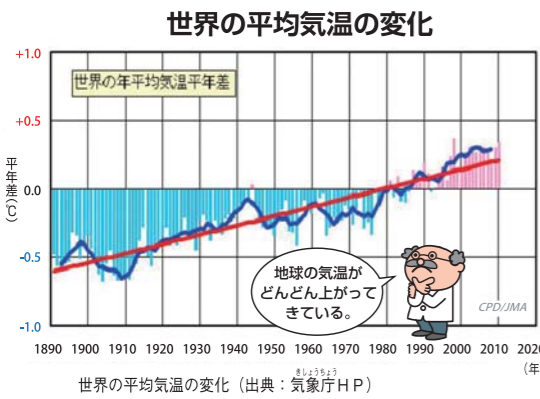
このような影響が現れる**地球温暖化**とは、
どのようなことなのでしょう？

地球温暖化とは？



■地球は太陽のエネルギーであたためられています。大気中の二酸化炭素(CO₂)などは、「温室効果ガス」とよばれ、地球の熱を宇宙ににがさない働きをしています。そのため、地球の平均気温は14℃ぐらいになっています。

■ところが、CO₂が増えすぎているため、地球の気温が上がってきている、とされています。このことを「地球温暖化」と言います。※「CO₂」は、「シーオーツー」と読みます。



温暖化を防ぐために積極的な取組が行われています。

東京都における取組

「カーボンマイナス東京10年プロジェクト」
「平成32年までに東京の温室効果ガス排出量を平成12年比で25%削減する」として目標を設定。

産業・業務部門対策
大規模事業所へのCO₂削減義務や中小企業への削減支援等

運輸部門対策
低公害車、低燃費車の導入促進、エコドライブの推進等

家庭部門対策
省エネ住宅の供給促進、環境教育の推進等

世界における取組



京都議定書

- 先進国の温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値目標を各国が設定
- 国際的に協調し、目標を達成するための仕組みを導入(排出量取引など)
基準年:平成2年
目標達成期間:平成20年から平成24年
各国の削減目標:日本は基準年比71%削減
- 平成25年以降の地球温暖化対策については、今後新たな国際会議で話し合いを行う

いつ、どこでCO₂が発生するのか？

これまでの学習から振り返ろう

わたしたちの暮らし

冷暖房、テレビ、水道には電気を使います。

調理などにはガス、自動車などには石油を使います。

家庭や会社、学校などからごみが出ます。

電気を作るために石油や石炭などを燃やします。

使用するためにガスや石油を燃やします。

処理するためにごみを燃やします。

石油などが燃えるとCO₂が生まれます。

CO₂が増えている原因は、私たちが便利な生活を送ることに大きく関係しています。

その一方で、地球上ではCO₂を吸収している森林が減少しています。

私たちにできることを考え、行動しましょう。

自分から

テレビを見る時間を1日1時間短くする。

買い物のとき、買い物袋を使うなどして、レジ袋はもらわない。

顔を洗うときや、歯みがきのときなど、水道をこまめに止める。

協力して

みんなでいっしょに行動をすることで大きな力になる。
(平成23年度の「CO₂削減アクション月間」には約19万9千人が参加し、約680トンのCO₂の排出を削減した。)

継続して

行動を続けていくことが、大きな成果につながる。

この他にも、地球や人にやさしい行動を考えてみましょう。

- 家族が同じ部屋で過ごし、冷暖房と照明の利用を減らす。
- テレビやパソコンなどを長い時間使わないときは、主電源を切る。
- 食べ残しをしない。
- ごみはなるべく減らして、決められたとおりに分けて捨てる。
- 樹木を植えるなどしてCO₂を吸収する緑を増やす。 など

